

## あぶらだまきのまごめあと 油田牧の野馬込跡が国指定史跡に

6月21日、国の文化審議会は、九美上地区および福田地区にある油田牧の野馬込跡を「しもうさきくらあぶらだまきあと下総佐倉油田牧跡」として国の史跡に指定することについて、文部科学大臣に答申しました。香取市では、良文貝塚・伊能忠敬旧宅・阿玉台貝塚に次いで、4件目の国指定史跡です。

ここでいう牧とは、江戸時代に軍馬養成のために幕府によって整備された牧場で、県内には佐倉七牧・小金五牧<sup>みね</sup>・嶺岡五牧<sup>おか</sup>が設置されました。油田牧は、このうちの佐倉七牧の一つで、現在の佐原地区南部から栗源地区北部の範囲にあたり、馬が逃げないように牧の外周を囲む野馬除土手跡や牧の内部を区切る勢子土手跡<sup>せご</sup>、馬を集めて選別する野馬込跡などが今でも残されています。

今回、国の史跡に指定されるのは、このうちの野馬込跡とその隣接地6,432.09㎡です。野馬込跡は、平面形が一辺約60mの三角形で、周囲を高さ2～3mの土手で囲い、内部は土手によって、馬を捕える「とっこめ捕込」、幕府に送る馬や農耕馬として払い下げる馬を入れる「ためごめ溜込」、繁殖のた

め野に返す若い馬を入れる「はらいごめ払込」の3区画に分かれています。毎年行われる野馬捕りでは、牧の馬をここに追い込み、選別しました。これは牧の最大行事で、近在から見物人が集まり、大いに賑わったようです。

国は「近世における馬牧の様相を知る上で貴重な遺跡」と評価しており、今後、官報告示により正式に史跡指定となります。現在は樹木や雑草が繁茂しているため、見学するのは難しいですが、市としては、国・県と協議しながら史跡整備を進めていく予定です。

図 生涯学習課 ☎(50)1224



▲油田牧の野馬込跡測量図